



南相馬

# 「南相馬復興ソーシャルビジネス・ギャザリング」 地域共通テーマ議論のとりまとめ

南相馬市は東日本大震災と東京電力福島第一原発事故により、原発からの距離（20km圏30km圏）で南北に分断され原発からの距離と汚染レベルによって避難の有無や賠償における対応が異なりきわめて複雑に地域・社会・人間関係・家族が分断され目に見えない被害や不安感の色濃く存在し、いまだ収束には程遠く不安定な原発への脅威も復興への大きな壁となっている難しい問題を抱えた地域でもあります。特に低線量被爆・生活再建・事業再開・避難／帰還を巡る意見の対立・風評・差別・無関心・仮の町と地域コミュニティの再生など様々な糸が複雑に絡み合っている状況の中でどの様に解いていくかを地域の再生と同時に考えなくてはなりません。そこで多様な知恵と民間が持つノウハウや経験、人材を活用し地域の実情をもっとも知る地域住民が地域づくりに関わり、力を合わせる事が重要で「地域地産地消」の輪を広げていき「エネルギー・資源・食糧・医療・人材・資金」など地域で循環させていく地域主体で「共に支え合う街」に創り変えていく取り組み、行動の一步が「持続可能な未来のために私たちが今一緒に何をすべきか」に繋がっていくのではないのでしょうか。

## 【具体案】

- ・ 様々な人々と交流する場を創る、それが様々なイノベーションを起こすきっかけの場となる。
- ・ スマールタウン（地域地産地消）を進めていく南相馬モデルを構築する。
- ・ 地域資源をもう一度再確認し、新たなコンテンツに創り変えていく取組（協同・共助）
- ・ 行政頼みの地域づくりから地域住民（企業・NPO・農協・商店主・市民等）自らが地域課題に取組み、解決していく共感の輪を広げる。
- ・ 仕組みづくりが重要（農林漁業の六次化戦略、地域コミュニティ、起業・創業、魅力のあるふるさと納税の活用等）など地域の特性を最大限活かした新たな価値のブランディングが重要。